

## 令和3年度 第3回定例研の分科会発表の感想

### OLD・ADHD等 天竜中 大坪和代先生

- ・適応指導教室と通級指導教室、在籍学級と様々な先生方との連携が大変であると思いました。子どもたちが困っていることや不安に思っていることを見つけ出して支援できる体制がすばらしいと感じました。
- ・中学生の発達通級の様子がよく分かりました。学校、学級担任との連携は欠かせないということが改めて分かりました。
- ・通級と適応教室との連携により、スモールステップで不登校傾向にある生徒が改善に向かい勇気をもたらうことができた。通級担当が適応教室でSSTや人間関係プログラムを実施することで、適応教室のムードが良くなって、全体でコミュニケーションスキルが高まるのはとても良いと思った。
- ・通級指導教室が設置されている学校に、適応指導教室も設置され、連携ができることの有効性を感じました。確かに、通級児童は不登校になるリスクも高く、通級指導教室を足掛かりに教室につながっている児童もいます。しかし、通級指導が行われている時間は部屋が空いていないのでその児童に関わることはできません。今後でもできることを一つ一つ丁寧に実践し、「良き理解者・良き支援者」になりたいです。ありがとうございました。
- ・特別な支援を要する子ども個の特性と捉え、ユニバーサルデザインや発達に合わせた環境作りなどを行い、自己肯定感を高めるような取り組みを行っている点が素敵だと思った。
- ・集団が苦手な児童にとって心のよりどころになる場所があることがどれだけ日々の意欲につながっているかが分かった。また、担当者与各担任との密な連携が大切であることを再認識できた。
- ・個に合わせた指導、在籍園や家庭との連携の大切さを感じた。形になる連携の仕方を再度検討していきたい。
- ・良き理解者、良き支援者を増やせるように・・・という先生の思いに共感した。微力ながらできることをできるところからやっていきたい。
- ・天竜中には子どもたちの教育的ニーズに応じた4つの教室があり、適応指導教室と発達支援教室が分かれて開設されていることに驚いた。そして、ハード面だけでなくソフト面でも、大坪先生が担当している子どもたちを通して、そこに関わる保護者や在籍校職員全体に発達支援教育を進めている様子が伝わってきた。
- ・発達通級指導教室を担当して、通級している子どもたちは、不登校になるリスクが高く、不登校との戦いだということを実感しています。中学では、そのリスクはますます高くなると思うので、通級と適応指導教室が連携して、教室復帰を目指す取り組みはとても素晴らしいと思いました。小学校には適応指導教室がないですが、最近は不登校の児童が増えているので、ぜひ、小学校にもあるべきだと思います。また、すべてが揃っている天竜中学校がすごいと思いました。ハード面ソフト面すべてにおいて、素晴らしい実践がされていて、とても勉強になりました。
- ・生徒の発達段階やニーズに応じて複数の場を準備してあるというのが素晴らしいと思いました。適応指導教室の存在が多くの生徒の救いになっていることが読み取れました。発達支援教室についても知りたいと思いました。
- ・適応指導教室と通級指導教室との連携は素晴らしいと思いました。子が登校を渋る理由には、通級で支援している発達障害の側面や、学習の苦手さの側面が影響している事も大いにあると思います。連携によって、子の安心できる場所や支援の幅も広がると感じました。

- ・通級以外に個別の教育的ニーズに対応する教室が充実しているのにまず驚かされました。しかもそれらを束ねる役割の重要性、大変さにも感じました。そんな中、全体を俯瞰的に見て全体計画を機能させているのはすごいと驚かされました。紙面にもあったように、今後多くのニーズが考えられる分野なだけに、このような組織も視野に入れながら全体像を考えて行かなければならないのだと感じました。大坪先生ありがとうございました。
  - ・浜松市の特別支援教育に対する考えやシステムに触れることができ、参考になりました。
  - ・各教室の運営や取り組みも興味深かったです。
  - ・通級とグリーンルームとの連携も素晴らしいと思いました。
- 
- ・発達障害の特性が原因で不登校になる子いるとは思いますが、発達障害＝不登校ではないので、不登校支援は難しいと思いました。この実践の事例の子ども達が理解者に出会い適切な支援を受けられたことは幸せなことです。しかし、当たり前支援を受けられる環境を提供できるよう通級担当者として、働きかける必要があると改めて感じました。
  - ・通級担当とコーディネーターを兼務していることに頭が下がります。しかし、大坪先生の実践は兼務されているからこそものだと思います。大井川中も総生徒数は同規模、特支学級は3つ、外国人生徒は30人以上います。ステップアップルーム（相談室 午前中のみ）があり、通常クラスに入れない生徒が常時5人程度います。このステップルームの運営に関して諸問題があり、天竜中の発達支援教室のような運営ができないか探っている状況です。家庭環境、発達や学習習得に困難さがある生徒がほとんどで個別支援が欠かせないため、担当者もしくは教室を増やすことを私からも働きかけていくつもりです。本校他校生徒ともに、不登校でも通級指導教室には来れている生徒もいます。通級指導教室で成功体験を積み重ね、自己受容、自己理解を進め、社会的自立ができていくように支援指導をしていきたいと強く思いました。
  - ・浜松市の継続相談判断という体験授業を行う方法は初めて知りました。市町によって取り組み方は様々だと思いました。通級指導教室と適応指導教室の連携ということで、大坪先生の一人一人に寄り添った丁寧な指導・支援から具体的な支援方法を学ぶことができました。自己肯定感を高められるような指導・支援を私も目指していきたいと思います。
  - ・大坪先生がレポートで丁寧に説明してくださっているので、市によって発達のサポートの方法がいろいろあるのだなと分かりました。それにしても経験の浅い私たちには適応指導教室、発達支援教室という、なじみのない教室が天竜中にはあって、それらの利用条件や利用頻度の基準など、どうなっているのか、とても興味深かったです。支援学級と通級と通常学級以外の居場所として機能しているようで、羨ましいです。また、通級担当となると、周りからは特別支援教育のプロであるという認識で見られることが多いです。大坪先生のように広い視野を持ってたくさんの子供達を把握し、適切なサポートへと交通整理をする力が必要なのだと感じました。
  - ・通級児童の中には、通級途中から不登校傾向になってしまう児童も何人かいます。通常級でも、各校不登校児童への対応が課題になっており、担任や級外等で協力して対応にあたっているのが現状です。天竜中学校では、校内に通級指導教室も適応指導教室も発達支援教室もあり、特別支援のサポート体制が充実していること、他教室と連携しながら指導に当たっていることがとても魅力的だと思いました。適応指導教室が、各市町でも充実していくと困難さを抱える児童のサポートが充実し、より通級での学びがいきってくるのではないかと思います。
  - ・事例を読むと「小学校の頃から、登校渋りだ」とか「小学校の頃から学力不振だ」という記述があり考えさせられました。大坪先生の実践は中学校のものですが、小学校にはその道をたどってしまう子が多くいると思うし、これから増えていくのではないかと心配しています。通級と在籍学級の間を埋める校内適応指導教室があること、またそこと連携することはどんどん大切になってくると思いました。

- ・通級指導教室、適応指導教室が開設され、連携をとって生徒の支援に当たっていらっしゃる大坪先生の実践を拝読し、生徒を取り巻く全ての環境の連携が必要である、と改めて思いました。今秋の島田市内中学校区研修会で、「中学校入学後に、学級に適応するのが難しく、不登校になってしまう生徒が多い」と、中学校担任から報告がありました。島田市では、まだ中学校通級教室が設置されていません。小学校通級指導担当として、連携を大切に組み込んでいきたいと思えます。
- ・通級指導教室「わかば」では、指導の3つの柱が明確で、内容も練られていることに感動しました。そこに校内の適応指導教室が合わさり、深い支援がなされて効果を発揮していることがすごいと思えました。担任や保護者の立場からみても、支援にゆとりと安心が持てるように感じます。
- ・子どものことは何事も意外に軽く考えられがちですが、先生の発表を見せていただき、気をつけて見ていかなければならないことを教えていただきました。
- ・本校では、来年度、発達通級指導教室が新設される。  
また、特別支援学級が増えるかもしれないという動きもある。そのような意味において、大坪先生がおっしゃっている「教育的ニーズが高まっている」と言っているのだらう。それにつれて、本校においては、まさに「発達支援教育体制」の構築が必要になってくると思われる。言語通級指導教室、発達通級指導教室、特別支援学級…それぞれがバラバラに指導や支援を行うのではなく、学校全体として、どのような共通理解のもとに連携をしていくかを検討していくかを、今始まっている来年度の教育課程編成に生かしていきたい。
- ・もともと、通級している児童は、明らかに言語通級の子だという以外に、発達通級だろうか、いずれは特別支援学級を視野に入れていった方がいいだろうかというグレーゾーンの子がいる。その意味でも、「発達支援教育体制」という概念は、とても納得のいくものだった。
- ・通級指導教室だけではなく、コーディネーターもやられているということでもすごいと思えました。中学ではやはり不登校（不登校ぎみ）の生徒が発達にも問題を抱えていることがよくわかりました。「通級」「適応指導教室」「支援学級」などの連携がとても大切なことがわかりました。ただ、通級とコーディネーターの両立は、だれでもできるわけではないなとも思いました。本市には、中学校に通級がないので、どのような形が望ましいのか見当が必要だと感じました。
- ・中学校にも通級教室があることで環境に適応することの苦手な子どもにとっては、小学校からのつながりが持ててよい環境だと思えました。
- ・浜松独自の名称がわからなかったのでネットで調べました。（発達支援教室・支援員等）
- ・特別支援教育が始まって10年以上たとうとしているのに、中学校に特別支援教育を浸透させることの難しさを痛感している昨今、たいへん参考になりました。外国人指導教室・適応教室・発達支援教室・LD等通級指導教室・発達通級の連携ができていることが素晴らしいと思えました。また、「継続相談判断」という考え方も大きい市ならではの思いました。
- ・運営委員会と生徒指導委員会の中に校内就学支援委員会の要素を含める事だけでも、相当の理解があつてのゆえでしょう。（小学校教員にはその苦労は想像するのみですが）
- ・天竜中学校の教員の中で支援や合理的配慮という概念はどのように根付いているのか、通級生との進路の現状について、機会があればぜひうかがいたいです。どうもありがとうございました。
- ・通級指導教室と校内適応指導教室の連携について、自分も不登校傾向については、通級のみの方で改善していくことの難しさも感じているため、複数の場を選択肢として考えられたり、共に情報を共有し考えられたりすることは大切なことなのだろうなと思えました。タブレット等ICT機器が導入され始め子どもたちの新たな関わり方も生まれ、どんな良い表れがでてくるかはこの先の時代楽しみだなと思えました。
- ・浜松市の「継続相談判断」について、通級担当の先生方はどのようにとらえているのでしょうか。市教委とどういった話し合いになっているのか知りたいと思えました。
- ・浜松市の継続相談判断というシステムと校内適応指導教室の設置が、担当者と生徒たちとの関わりを

深め学習意欲に結びついていると感じた。小学校にもこの継続相談判断というシステムがあるのでしょうか。自校には別室登校児と通級教室の連携システムがないので、浜松市を参考にして対応を考えたい。

- ・保護者支援の在り方として理想的な実践であると思う。雰囲気づくりから工夫しているのがよい。
- ・「しずかにうちわ」…大変素晴らしい教具だと思いました。当たり前なことでも、きちんとできたら称揚し、その成功体験の積み重ねで成長していけるきっかけになるのでは、と感じました。「字を丁寧にうちわ」「良い姿勢にうちわ」なども作ってみたいとなりました。担任の先生や保護者にも紹介していきたいと思いました。
- ・事例2の生徒…学びの場が知的が適していたのだと思いました。大坪先生のような生徒の見立てができる教員が増え(自分自身もこのような力をつけなければいけない)、適切な場で適切な支援が受けられる生徒が増えると良いな、と思いました。通級担当は、就学支援に関わる大切な任務をになっていると改めて感じました。
- ・本校にも、天竜中の発達支援教室と似た役割の教室(学習室)があります。通級担当全員週に一時間その教室の授業をもっており、教科指導や、コミュニケーション力の育成を目指した指導をしています。それこそが、通級指導教室が設置されている学校の強みだと思うので、通級担当者が、教室での指導の枠を飛び越えて在籍校の中でひとつでも多くのことを還元できるよう働きかけることが大切だと思いました。
- ・学習における教具の視覚化はとても素晴らしいと思いました。やはり、机に向かって学習することが難しい生徒は、体で感じ取ることができ環境を整えてあげることが必要だと思いましたし、自分がやることができることが分かれば、今後は自分の力で工夫していけばよいと改めて感じました。
- ・一人ひとりの発達段階と教育的ニーズに応じた支援を行う教室が充実していることが素晴らしいと思いました。その中で、様々な生徒の困り感や悩みに寄り添い、丁寧に支援されていることが実践内容から伝わってきました。それと同時に、多くの生徒は、学校に安心感を求めていることがわかりました。私も、子どもの声に耳を傾け、その子の特性を理解して、良き理解者、良き支援者になれるように努力していきたいです。
- ・事例を通して、学校に不応適を感じる児童達は、自己肯定感が低いこと、学校に登校する目的を見いだせないこと、学習に対するやる気もてないことが共通点であると感じました。通級指導教室の職員として、その児童が抱える課題は何か、同時に、その子にあった支援は何か(対人スキルなのか学習スキルなのか)を的確に見極める専門性が必要であることを再認識しました。今回、通級指導教室と校内適応指導教室の連携のあり方について学ぶことができ、貴重な発表をありがとうございました。
- ・生徒のアンケート、本音が聞けた。
- ・学びの場が校内にいろいろあることを羨ましく思った。
- ・見学に行かせていただきたい。
- ・文科省の制度の下の通級なので、厳密に審査するとタイムリーに支援してあげられないケースがあり、はがゆく感ずることがあります。コーディネーターだったころも、果たしてどの制度なら使えるのかどの制度がきっかけになるのか そのためにどうアセスメントや実態をそろえ整理していくかなどを 考えていました。 校内にこれだけのリソースがあると、校内判断である程度柔軟に段階をふんで支援できることが うらやましいと思いました。 そういうときに、直接支援指導するしないは別としても、通級担当者としての観察のスキルや関わりのスキルが役立つことも、先生の実践を見て実感しました。
- ・「発達支援教育についての校内研修」や「ユニバーサルデザインの授業や環境の工夫例を紹介」など、校内に向けた取組を計画的に進められている点が素晴らしいと思った。通級の役割とは、個の支援を中心とした関係機関とのかかわりだと思うので、今後、自分たちが本校や在籍校とかかわっていくときの参考にしたいと思った。
- ・この学校では、校内に適応指導教室が設置されているという点で、静岡市とは大きく異なっていると

思いました。不登校の原因には、様々な特性が関わっていることも多く、通級指導教室との連携は大変重要だと思います。また、継続相談のシステムもとても有効であり、どこの教室に属するのが適当であるか線引きをしにくい状況が多々ある中で、このような臨機応変な対応はとてもありがたいことだと感じました。

- ・一人一人の発達段階と教育的ニーズに応じた支援を行う校内適応指導教室は、これから最も求められるだろうと思う。特に、不登校傾向や教室に入れない生徒にとって心の拠り所は必要である。またタブレット授業の導入で、口頭での意見交換が苦手な生徒も取り組み易くなったことは良い効果であり、今後個々に応じた学習の機会と支援が広がることを切に願う。
- ・中学生という年代の実際の例を知ることができ、勉強になった。
- ・通級指導教室、適応指導教室、発達（特別）支援学級、発達支援室、外国人指導教室など様々なニーズにあった教室や学級が設置されていて素晴らしいと思いました。これらを運営していくためには、特別支援教育コーディネーターとしては、各教室・学級のパイプ役になったり、学校教職員全体の特別支援教育に対する理解を深めたりするなど多くの役割があるのだろうと思われまます。また「継続相談判断」という体験を含むアセスメントを取って、適正就学につなげていけるシステムも良いと思いました。
- ・一校の中に、校内適応指導教室、発達支援教室、発達支援学級、通級指導教室が設置されているのは、大変素晴らしいことだと思いました。施設（教室 など）がばらばらに存在することで、一人の子の見取りが細切れになりがちですが、施設（教室 など）のつながりがあることで、一人の子の見取りが途切れにくくなります。「つなぐ」「つながり」は、大事なことだとあらためて思いました。ありがとうございました。（発達通級担当）
- ・校内に適応指導教室があることのメリットが大きいと思いました。校内にあることで連携がスムーズになるのだと感じます。
- ・事例から丁寧に情報を共有していることがわかりました。情報の共有ができれば、その子への対応が先生の中で統一されます。関わる先生方が同じ方向を向いていることで安心して子どもが過ごせるのだと感じました。
- ・浜松市では、通級指導教室・適応指導教室・発達支援教室・外国人指導教室と、それぞれのニーズに合わせた教室がいくつもあり驚きました。ニーズに合わせた指導を行うことが、子ども達のより良い成長につながっていると感じました。
- ・学校体制として支援を必要な生徒に応じた対応ができていて、子ども達の安心が見える学校だと感じました。
- ・それぞれの教室が校内で確実に周知され、各教室の理解や配慮は行き届いており、素晴らしいと思いました。特別支援教育の理解も進んでいることが読み取れ、本校の特別支援教育体制にも参考させていただきたく思います。
- ・適応教室利用生徒のアンケートの中で来年は教室に通いたいと答えた生徒ほど欠席が多くなっており、自分でハードルをあげすぎたことで登校しにくくなったというお話はとても興味深く共感できました。
- ・浜松市の継続相談判断という制度は予防的措置の意味でとてもよいと思いました。
- ・不登校傾向の生徒のための適応指導教室「グリーンルーム」がありましたが、不登校傾向の児童生徒の問題は、本校にとっても大きな課題の一つです。吉田町内では、小学校に適応指導教室はなく、教育委員会内に、「ステップ」という不登校児童生徒が通える機関があります。しかし、「ステップ」から教室復帰できる児童生徒の数は少ないこと、不登校児童生徒数が増加していることから、小学校でも適応指導教室のニーズが高まる可能性があります。発表の中学校では、適応指導教室の担当とは別に、適応指導教室で授業を行う教科担任がいたり、通級担当が道徳、総合の授業を行ったりして、適応指導教室の生徒に手厚い支援をしていました。適応指導教室は正式な教室ではないため、このようなことを行うのは大変な苦労があると想像できますが、生徒のために校内体制を整えていて、素晴らしいと思いました。適応指導教室は、本校だけで考えられる教室ではありませんが、不登校傾向の児

児童生徒が増加している中、検討する一つの選択肢だと思いました。

- ・中学校の通級を担当したことがないので、具体的な指導方法などを知ることができて良かったです。適応指導教室の担当者と連携していくことが大切であることも分かりました。
- ・天竜中の発表を見ると、発達支援学級と言った呼び方や発達支援教室といった存在など浜松市が自分たちの自治体とは違う取り組みをしていることが感じられた。IQが80以上でも知的の支援学級に入級なども違いがある。通級と支援学級、相談室等の連携を私たちも考えていかななくてはいけないと感じた。
- ・生徒が成長を感じやすい学習の大切さがわかった。
- ・生徒一人一人の実態や課題について丁寧なアセスメントを行い、その子に合った指導支援の大切さがわかった。子ども自身も、「なぜうまくいかないのか」が分かっている場合も多いかと思う。できることをつみあげていくことで自信になり、その自身が子どもも楽しく「もっとやってみたい」と生活や学習の原動力におすびついていると感じた。
- ・通級指導教室、適応教室、発達支援教室、外国人指導教室と、一人一人の発達段階に合った教育的ニーズに応じた支援の場を校内に設置し、学校体制での組織的な取り組みが実践されていて素晴らしいと思いました。自校には、通級指導教室（言語・LD等）のみで、支援員も少人数なため、取り出し指導及び教室での寄り添い支援が十分に行われていない状況です。困り感のある児童への対応に関しては、随時、就学支援会議を開いて検討し、養護教諭や通級指導教室担当、フリーの職員などが臨機応変に対応することが多く、組織として機能していないと感じています。在籍学級での合理的配慮と教育的なニーズに応じた支援の場の充実で、子供たちの困り感を解消・軽減させることの実現を目指して努力していきたいと思いました。
- ・浜松市の充実した制度を知ることができた。子どもの状況に応じて、様々な学習を保障する場が設けられており、一人ひとりの育ちを大切にしようとする浜松市の姿勢が感じられる。他の市町村にもこういう制度が広がっていくといいと思った。
- ・通級指導教室、適応指導教室、発達支援教室、外国人指導教室があり、連携もとれていて素晴らしいと思いました。幼児担当ですが、園の先生方に通級指導教室のことをもっと知ってもらい、連携をとっていきたいと思います。
- ・支援学級や通級指導教室の他に、適応指導教室や発達支援教室があり、生徒にとって安心できる場所があることのよさが分かった。
- ・今後、通級担当や特別支援コーディネーターの役割は、さらに大きくなると思われるため、その力を高めていく必要があると改めて思った。
- ・丁寧な指導、対応、連携の重要さが分かりました。
- ・中学の通級にたくさんの子たちが通っていることを知り驚きました。学習不振から不登校になる子が多い中、もっと通級を増やしてほしいと思いました。
- ・困り感を抱える子にとって、自分の居場所だと思える場所があること、さらにその居場所が在籍学級とつながっていることは、安心につながると思います。素晴らしい実践をありがとうございました。
- ・発達支援教育について校内研修を充実させ、周知徹底していく体制が素晴らしいと感じました。
- ・通級指導教室と適応教室の連携が今後ますます必要になると感じました。
- ・校内適応指導教室はどの学校にも必要だと思いました。

・こういった実践がどの学校にも当たり前ができるような人材育成、制度（体制）づくりができてくると救われる子も増えると思います。

・それぞれの役割分担がしっかりとされているため、支援がスムーズに行うことができると思いました。きちんとして枠組みが必要だと思います。

不登校傾向の児童を「継続相談」や相談の継続という形で支援しており、参考になった。

その子の居場所になるだけでなく、次のステップにつなげたいと思った。

通級指導教室の果たす役割が明確で、存在感もあると思いました。校内体制で取り組むとはこういうことか、と感じました。通級の果たす役割についてもっと校内に啓発しなくては、といつもぼんやり思っているのですが、すでにこうした取り組みをされている様子をお知らせいただくと、自分がほとんど前に進めていないことを感じます。

中学の通級指導と小学校とでは違いがあるのかもしれませんが、自校通級でない場合の連携体制がどうなっているのかも知りたいと思いました。

・「発達支援教育はすべての子どもが対象である。すべての教員によって、ユニバーサルデザインの授業と環境の工夫が進みつつある」との力強いお言葉が印象的でした。支援と一口に言っても児童のあらわれは一人ひとり違い、それも日々変わっていく中で、安定して授業や指導ができるための手立てもどんどんと必要になっていきます。さまざまな資料や文献、諸先輩方の手立てやかかわる姿に触れ、何がその子にとって必要か、有効かを導き出すために努力し続けることが大切だと感じました。また通級指導教室の立場でできること、できそうなこと、保護者や在籍校のコーディネーターさんや担任の先生を巻き込んでできることを模索することも大切だと感じました。